

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ドリームリフター		
○保護者評価実施期間	令和6年12月9日		～ 令和6年12月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	令和6年12月9日		～ 令和6年12月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	高学年の子ども達が利用しやすい時間帯の設定をしている。部活動など、学校生活も充実しつつ、必要な療育を受けることができる。	中学・高校生であっても、学校終了後に利用できる。生活リズムが乱れる傾向の子ども達には基本的な生活力を、また社会に出る日が近くなってきている子ども達には、それぞれの進路に応じた課題に向き合えるよう支援している。	子ども達のニーズに合わせ、利用にこたえられる時間は今後もキープしていきたい。
2	進学や就労に向けた取り組みをしている。自分の目標を決めさせ、学校とも連携し、必要な力を身につけさせていく。必要な学力をつけさせていく。就労時に必要な力をつけさせていく。 EX.パソコン学習、作業訓練(ピッキングなど)、好きな教科 苦手教科の取り組み等	学校と連携を図り、必要に応じこちらから出かけたり、先生方が来所してくださったりで、本児の課題や方向性を一緒に考えていく体制が取れている。自立通所を推奨しており、初期には地図上での確認や実際の経路確認などを行い、進学や就職の幅が広がるよう支援している。	就職先とも連携を図るような体制を作り、社会に出た時に必要となる力をさらに伸ばしていけると良い。
3	子どもたち同士で話し合える機会がある。悩んでいる子に対し、乗り越えてきた子たちからのアドバイスがある。 EX.事業所の利用について、学校や家庭での悩み、友達の事異性の事等	様々な考え方があってよい。自分の考えはもちろんのこと、違った考え方であっても、受け止められる力をつけさせていくよう導いて行く。	当事業所を卒業し、就職・進学した先輩たちにも来てもらう機会を作り、様々なアドバイスをもらったり、意見交換をすることで、自分の身に照らし活かしていける場機会を作っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	時間帯が遅いため、お子さんのいる職員の勤務が難しい。また、新たに募集をかけても、職員の確保が難しい。	遅い時間帯に働ける職員の確保。	ハローワークの活用、職員間のつながり等で人脈を広げる。若い世代や子育て中でも仕事ができるような体制を考えていけると良い。 ※職員の子どもの対象とした事業所内児童クラブなどの設置
2	事業所の開所時間が遅いので、夕飯の時間が遅くなるなど、子ども達の生活リズムに課題が残る。	学校生活を充実させつつ、仲間づくりや学習取り組みなどの課題をたくさん抱えた思春期の子ども達。時間がたくさんほしいが、生活リズムも整えたい。	夕飯が遅くなる場合の対策として、間食を上手に利用すると良いので、おやつはおにぎりや果物、乳製品など、カロリーや脂肪の少ないものを、また菓子類や嗜好飲料などをとる時は、栄養成分表示などを参考に200kcalまでにとどめ、食べすぎないようにする。(農林水産省のホームページ参照)
3	通学時間や部活動の関係で、利用時間にばらつきがあり、集団で取り組む活動の設定が難しい。また、帰宅時の安全面も課題。	中学生は市内広範囲からの利用、高校生では電車通学の子ども達もいる。様々な条件の中での利用となっている。	様々な条件の中で、利用している子ども達である。しっかりと自分の課題に向き合わせ、取り組みに積極的に参加できるようにさせていったり、保護者とも連携を図り、安全確認の連絡を常に取りあえる体制を更に確実なものにしていく。